

キャラクター名
堺 比呂文

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	FHマーセナリーC	カヴァー	鍛冶屋
	モルフェウス					
オプション			年齢	34	性別	男
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	結社の一員	経験	汚点	邂逅	栄誉	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	2		0			2	行動値	9
感覚	4		0			4	(非装備時)	9
精神	0	1	0			1	戦闘移動	14
社会	2		0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:	2		情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ツツカ		0		16		
日本刀				5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
[54] 装備者/アイテムユーザー	P	N		
万陀羅ヶ原	P 憧憬	N 恐怖		
使い古された刀工鎚	P 懐旧	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
サンドシェード	2	4	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果: 攻撃力+白兵武器の攻撃力、指定した白兵武器破壊								
砂の加護	5	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定+(Lv+2)D								
剣の王城	2	4	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: シーン間攻撃力+Lv×2、(Lv+1)本の日本刀作成、1回/1S								
ストライクモード	5	6	メジャー	-	単体	対決	80%	
効果: 攻撃力+LvD、判定後武器破壊								
コンセイントレイト	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

刀鍛冶の失敗作を敵に投げつける系FHマーセナリー。鎌倉時代からの歴史を持つ刀鍛冶屋の家系の倅であり、ただの一度もグレることなく重たい歴史が敷いたレールの上に乗っかる形で鍛冶屋を継いだ。生まれもった才も年月をかけて培った腕も平凡。際立った完成度を持つ作品は造れないが、現代では所詮は観賞用として製造される日本刀。ならばこれから先ずっと平均点を出し続けられればそれでいい。これからの人生が同じ作業の繰り返しになることを飲み込み、納得しようとしていた。そんな折、FHがエモノの調達のために彼らの鍛冶屋の寄り合いを襲撃した。親類や家族を何人も失ったが、そんなことはどうでもいい。彼は目撃した。彼らが土蔵から取り出した刀の輝きを。祖父から伝えられた名は「マンダラガハラ」。どのような保存状態であれ、江戸時代に鑄造された一族の最高傑作は年月の経過に耐えられるはずもなく、錆びついた鈍に腐れ落ちているはずだった。しかし、彼の手握られたその刀は、空に浮かぶ三日月と同様の輝きを放っていた。娘の仇を打とうとも、一族の誇りを返せとも思わなかった。ただ、自分もあのような傑作を完成させてみたいと。それが、彼が能力者として覚醒したきっかけである。

現在、彼はオーダーメイドにて依頼者の好みに合わせた武器を製造するFHイリーガルという看板を下げて活動している。本人は影からFHを支える縁の下の力持ちを気取っており、武器作成に必要な素材とその報酬金に応じて最高の武器を生成する最高の鍛冶屋のつもりでいる。しかしながら、あの日見た名刀の輝きに心を奪われた彼は、自分が世に出す作品たちは「マンダラガハラ」に並ぶ名刀でなければならぬという妄執に憑りつかれている。自分が納得できるものでなければ顧客にその刀を差し出すことがないが故に、これまでただの一度も請け負った依頼に対して武器を納品したことがない。「マンダラガハラ」に及ばない刀はすべて失敗作であり、そんなものを売りつけるわけにはいかない。非完成品を世に出回らせ、誰かに使われてしまったら顔厚忸怩のあまり悶絶してしまうから、失敗作は責任をもって処分すべきだ。本業の収入がからつきしなだから副業で生活していかなければならないという私事も相まって、彼は依頼された敵対組織に失敗作の雨をぶつけ、そんな自分の失敗作たちを跡形もなく破壊しつつ、生活費を稼ぐという一石二鳥な傭兵業を請け負っている。一般的な支給品と比べ目を見張る品質の刃の数々をそれらが粉々になるほどの射出速度で放つためその破壊力は確かなもので、彼の名をFHマーセナリーとして認識しているものの方が多い一方で、彼は自分の作品を手に取り戦うはずの戦闘員と肩を並べて戦線を張るという現在の仕事を彼は大変不本意に思っている。そのため、そんな職人気質の彼のご機嫌を取るため、そして彼の『不法投棄』の弾数を増やすため、彼を副業で雇う際には本業の武器作成の依頼をしてやるといいだろう。